

桜花爛漫 泳げ！空高く…

(5月5日／大暮山地内)

※ 16-17 頁に関連記事

特 集／検証！わが町のライフライン前編「水の道」
町政スポット／町議会議員選挙、平成23年度町区長紹介、空気のふるさと
推進町民運動、岩手県山田町での支援活動報告 ほか
カメラさんぽ／電動アシスト付き自転車「チャリんこ」で春を探す旅

広報

あさひまち

2011年 5 月号
No. 654



特集

検証！わが町のライフライン 前編「水の道」

蛇口の向こう側

Step 1

おいしい水が届くまで…

―町水道の歴史と概要―

蛇口をひねれば当り前のように流れ出る水。でも、その水ってどこから届いているのかをご存知ですか。まずは町水道の歴史と概要を紹介します。

町内の水源は2つ

一ツ沢と雪谷

町水道事業の歴史を振り返ると、町内に初めて水道が敷設されたのは昭和30年代。町史（下巻）によれば、昭和33年に大谷地区で、35

年に太郎地区でそれぞれ簡易水道が完成しています。しかし、当時はいずれの水源も地域内をカバーするだけで精いっぱい状態。とても町全域をまかなえる水量ではありませんでした。そこで町は、全町民が利用できる水源を求めて、町

電気や水はいわゆる「ライフライン」と言われるように、日常生活に欠かせないものです。

このたび発生した東日本大震災では、かつてない広範囲な地域で停電したほか、多くの被災地で断水も発生。この震災を機に、これまで何気なく使ってきた両者の重要性を改めて感じた方も多いことと思われます。

そこで本誌では5月、6月号の連続企画として町のライフラインに注目。身近な水と電気について理解を深めます。

今月号では、その前編として「水」を特集します。



広域簡易水道（当時）の完成を報じる町広報（昭和41年5月号）

内をくまなく調査。その結果、朝日連峰のふもと、一ツ沢に良質で豊富な水源を発見しました。

これを受け、昭和39年7月に水道敷設工事を着工。一ツ沢を起点に中沢まで総延長約40kmの管が、各地域を枝葉のように網羅しながら埋設され、40年12月には豊龍の丘に給水施設として配水池が完成。翌41年4月、当時で町の70%の地域に給水する「朝日町広域簡易水道」事業が始まりました。

寒河江ダムが水源の「村山広域水道用水」

一方、平成3年には寒河江川及び最上川の治水、県村山地方への利水と水力発電を目的に、国が建設を進めていた寒河江ダムが完成します。これに伴い県では、このダムを水源とする「村山広域水道用水事業」（以下「村山水」と表記）を開始し、同年から寒河江川流域周辺市町に対する本格給水を始めました。

ちなみに、この工事にかかった金額は当時の予算で1億5000万円以上。41年度の町一般会計当初予算額が2億370万円だった点から見ても、どれだけの大事業だったかを推測することができます。

その後、給水戸数の増加や生活スタイルの変化に伴い、使用量が増加すると、徐々に水量が不足。昭和46年には新たな水源を雪谷地

町でも、将来的にさらに水需要が高まる可能性があることを予測し、一ツ沢、雪谷の両水源を補うため、村山水からの給水を決定。平成3年4月から大谷地区への給水を開始しました。

■朝日町「水の道」マップ

あくまで、平成 23 年 4 月 1 日現在ですので、今後変更される場合があります。

【町水道事業の給水地域】

- …一ツ沢水源から給水を受けている地域
- …村山広域水道から給水を受けている地域
- …雪谷水源と村広水を併用している地域
- …一ツ沢水源と雪谷水源、村広水を併用している地域
- …各地域の水源地から給水している地域（簡易水道地域）

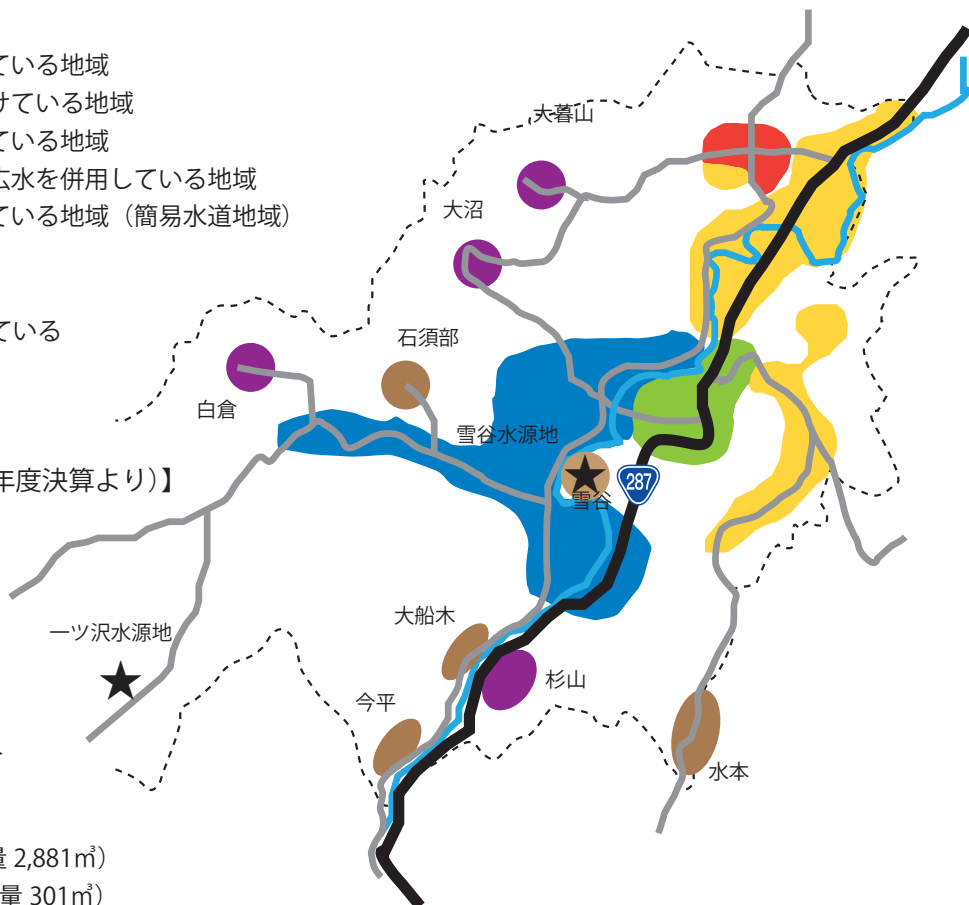
【町水道事業の管轄外区域】

- …各地域の水源地から給水している地域（簡易水道地域）

【町水道事業の概要（平成 21 年度決算より）】

- ・行政区域内人口 8,177 人
- ・給水区域内人口 8,078 人
- ・給水人口 7,932 人
- ・普及率（※） 98.19%
- ・一日平均給水量 2,511m³
- ・一日最大給水量 3,393m³
- ・一日平均給水量 316ℓ / 1 人
- ・水道管延長 96.5Km
- ・配水池数
 - 上水道…13 基（最大総容水量 2,881m³）
 - 簡易水道…4 基（最大総容水量 301m³）

※普及率…給水人口 / 給水区域内人口



複数の水源を併用している地域については、季節に応じて湧水量が変化するため、状況に応じて各水源からの水量を調整しています



杉山地区の簡易水道完成にあたり、記念行事で消火栓を操作し通水を確認する志藤武志元町長（昭和 46 年 11 月）

小規模な地域には「簡易水道」が普及

その後、平成 20 年 8 月からは宮宿地区の豊龍配水池まで引水し、給水範囲を拡張。現在は一ツ沢、雪谷水源を補う形で両者と混合され各地に給水されています。

このほか杉山、白倉、大暮山、大沼の 4 地域には町が管理する「簡易水道」として、集落の近くに水源を確保。そこから、それぞれ

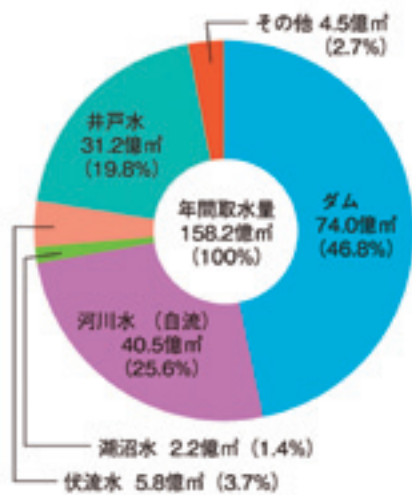
の配水池を経由し、各家庭に給水されています。
なお、水本、雪谷、石須部、大船木、今平の 5 地区ではそれぞれの地域で独自の水源と配水池、そして簡易水道網を構築しています。これらは町水道事業の管轄外で、管理を行うのは区や任意の組合など。町の水道料金の負担はありません。

3つの水源からの水を飲んでいる

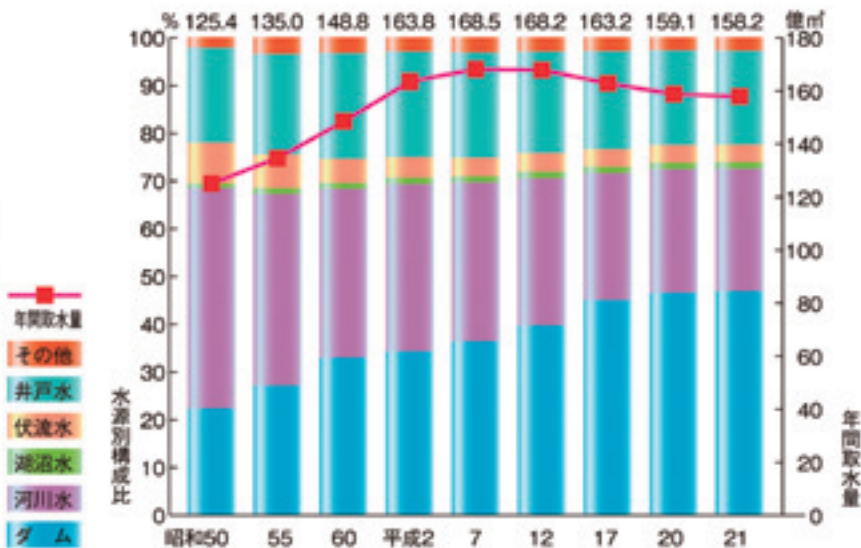
各家庭の蛇口から流れ出る水を、水源地ごとに色別で紹介したもののが上の地図です。簡易水道の地域を除けば、町の水道は、「一ツ沢」、「雪谷」、「村広水」の 3 つの水源から配水されていて、給水地域も複数に分かれています。

【グラフ】 国内の水道水源の状況（出典：社団法人日本水道協会）

■水道水源の種別（平成 21 年度）



■水道の年間取水量と水源別構成比の割合



Step 2

水質管理は大丈夫？

― 浄化・滅菌と定期検査 ―

蛇口から流れ出る水道水とは言え、その水源は湧水や伏流水、そしてダム湖の水など様々。こうした水を各家庭に届けるにあたり、浄化や滅菌など、様々な安全衛生管理が行われています。

ダム・河川水が70%以上 水道水の水源

上のグラフは、社団法人

日本水道協会が国内の水道水の状況を水源別にまとめたものです。これを見ると、全国的にはダム貯留水や河川水等の、いわゆる「表流水」に水源を大きく依存していることがわかります。

資料によると、昭和50年

度には、年間取水量に対するダムの依存率は約22%でしたが、平成21年度には46.8%。ダムに依存する割合が年々高くなっています。

参考までに、町内にも「上

郷ダム」がありますが、同施設は水力発電用のダムです。飲料水としての利用はありません。

滅菌消毒のみでOK 良質な町内の水源

ここで、町水道の水源を改めて確認してみたいと思います。

まずはじめに、朝日連峰のふもとにある一ツ沢水源の地。ここでは地下水が地表に湧き出る湧水を利用して、山の恵みとも言える湧水は比較的不純物が少

ないため、立木滅菌室の塩

素による滅菌消毒のみで飲料水となり、各配水池から各家庭に給水されています。

また、町が管理する簡易水道地域も湧水が水源です。で、一部薬注る過を行っている水源もあるものの、基本的な浄化方法は同じです。

一方、雪谷水源では、最上川の伏流水を利用しています。伏流水とは、河川などを流れる地上の流水が、地下に一時潜入して流れる水のことをいい、砂れきなどの荒い土質の場所に多く見られます。一般的に水質は地表の河川と関係性があり



一ツ沢水源の滅菌室（立木地内）



(上) 最上川のそばにある雪谷水源。河川の伏流水を利用している

(右) 宮宿地内の豊龍の丘にある雪谷水源の配水池（タンク）。現在は一ツ沢水源と村広水からも引水され、広い範囲に給水している



ますが、地中で浄化されるため水質は良好で、水道水にも広く利用されています。

雪谷水源も水質が良好なことから、浄化は一ツ沢水源と同様、塩素による滅菌消毒のみ。豊龍配水池で村広水からの水と同じ配水池（タンク）に入り、各家庭に給水されています。

定期検査で安全を確認

飲料水については、法律によって定期的な検査が義務づけられています。検査は約50項目設けられていて、一般細菌や大腸菌など10項目については毎月、そのほ

かの項目についても数カ月から年1回の割合で検査が行われています。

町では上水道6箇所と、町が管理する簡易水道4箇所の水道水を毎月採取。専門機関へ検査を委託し異常がないか調べています。

数段階の浄化工程と検査 村広水の水

寒河江ダムを水源とする村広水は、村山地域の水がめとして、尾花沢市、大石田町を除く同地域内6市6町の約50万人に給水しています。

西川町沼山で寒河江川より取水された水は、同町吉川にある西川浄水場に送水され、数段階の工程で浄化されています。町同様、法的な定期検査のほか、色、濁り、臭い、味、水温等については毎日実施される検査により、厳しい安全管理が行われています。



村広水の水は西川町沼山で寒河江川より取水され（上）、同町吉川にある施設（下）で浄水されている。右は大谷にある村広水の配水池（タンク）



震災後の検査体制 放射性物質の有無は

東日本大震災の直後、関東地方の一部の浄水場で、一時基準値以上の放射性物質が検出されたことから、県内でも昨今は水道水の安全確認が行われています。

すでに村広水を管理する県企業局では検査を3回実施し、いずれも放射性物質



の検出がないことを確認。ホームページや新聞等でその結果を公表しています。

町が管理する水源についても、一ツ沢は検査を終え、異常のないことを確認しています。残る雪谷水源については検査機関へのサンプル提出を終え、現在はその結果を待っています。万が一何らかの異常が出た場合には、町民の皆さんにただちにお知らせいたします。



新明鏡橋の下を走る町及び村広水の水道管。こうした配管工事を支えるのも使用料

滞納が増え、水道事業本来の業務を圧迫

1億6037万円。これは、一般企業の「売上げ」に相当する当町水道事業所の1年間の「給水収益」です（平成21年度決算）。冒頭にもある通り、町の水道事業は「公営企業」と言われ、

一般会計とは別物。自らの稼ぎ（水道料金）や貯金（内部留保金）で事業を行い、起債（借金）も独自で行わなければなりません。

滞納が増えてきたのが平成16年度。各区長さんが集めていた「集合主税」から普通納税制度になったことがきっかけでした。この年に境に、以前はほとんどなかった未払いや滞納が発生。昨今の不況なども影響してか、近年は毎年約80万円ずつ増加し、今年4月1日現在の累計滞納額は約400万

円に上っています。町でも3カ月以上の滞納者に対しては、原則として給水停止の措置をとっていますが、近年はこうした給水の停止・再開業務や督促の発送や支払い催促が増加。水道事業本来の業務を圧迫しています。

使用料が町水道事業を支える

水道管は年々劣化し、およそ40年から50年を目安に交換する必要があります。ここ10数年間は敷設当時の管が交換時期にあたり、毎年数千万円単位の経費がかかっています。また、多くの配水池は間もなく更新時期を迎えようとしています。

こうした更新・保守管理事業を支えるのは、皆さんの使用料です。事業を健全に運営していくためにも、使用料はきちんと期限内に支払いましょう。



七ヶ浜町への給水支援のため非常用給水袋に詰めた水を搬送用トラックに積む町職員（3月16日／役場前）

水道事業に関心を持っていただければ幸いです」と言葉を加えました。

Step 3

独立採算制の水道事業

—使用料が町水道事業を支える—

自治体の水道事業は、法律によって独立採算制と決められています。そのため、赤字になっても町の税金などで穴埋めすることはできません。つまり、皆さんの水道料金が、町の水道事業にかかる経費をまかなっているのです。

円に上っています。

町でも3カ月以上の滞納

者に対しては、原則として給水停止の措置をとっていますが、近年はこうした給水の停止・再開業務や督促の発送や支払い催促が増加。水道事業本来の業務を圧迫しています。

Step 4

「あたり前」のありがたさ

—震災を機に学ぶ—

今回の地震では、町と友好関係にある宮城県七ヶ浜町も大きく被災。発生直後から水道がストップしたことから、当町では非常用の給水袋により合計3,6トンの給水支援を行いました。七ヶ浜町ではその後も1カ月間、水が使えない状態が続き、水道が完全復旧したのは4月17日。改めて水の大切さを実感したと思います。

大きな断水はありませんでした。しかし、備蓄水の確保や給水タンクの準備など、これを教訓にすべきことはたくさんあるはずです。

「蛇口をひねれば水が流れる…。このあたり前のことを維持するのが私たちの務めです」そう話すのは町建設水道課の鈴木俊治主査。『今回の地震を通して、我々も改めて水の大切さを痛感したところです。町民の皆さんも、今回の地震やこの特集記事を通じて、町の水道事業に関心を持っていただければ幸いです」と言葉を加えました。

朝日町では給水に電力が必要な一部の地域を除き、

「蛇口をひねれば水が流れる…。このあたり前のことを維持するのが私たちの務めです」そう話すのは町建設水道課の鈴木俊治主査。『今回の地震を通して、我々も改めて水の大切さを痛感したところです。町民の皆さんも、今回の地震やこの特集記事を通じて、町の水道事業に関心を持っていただければ幸いです」と言葉を加えました。

12人の議員決まる

朝日町議会議員選挙

議長に長岡啓治氏、副議長に長岡裕二氏

4月19日に告示された朝日町議会議員選挙は、定数12人に対し14人が立候補。東日本大震災の影響により、候補者は選挙運動の規模縮小を余儀なくされましたが、最後まで公約や主張を有権者にアピールしました。

24日に行われた選挙の開票結果は下記のとおり。投票率は81.49%で、過去最低だった前回（86.20%）をさらに下回る結果となりました。

開票確定後、開発センターで当選証書が交付され、その後、5月2日に招集された初議会で、議長に長岡啓治氏、副議長に長岡裕二氏が選出されました。

今後4年間町議会を担う議員は次のとおりです（年齢は告示日時点のもの。○数字は当選回数）。



議長
長岡 啓治
(常盤 63歳 ③)



副議長
長岡 裕二
(沼向 50歳 ③)



松尾 正二
(西町 63歳 ①)



岡崎 吉博
(水本 62歳 ③)



柴田喜久雄
(助ノ巻 61歳 ③)



鈴木 義昭
(大暮山 57歳 ②)



阿部 正明
(真中 51歳 ①)



白田 忠一
(大谷二 60歳 ①)



小関 崇夫
(栄町 70歳 ③)



鈴木 光一
(大隅 53歳 ③)



渡辺 薫
(古楨 61歳 ③)



海野 義弘
(能中 63歳 ④)

得票順位	候補者氏名	党派	新現元別	得票数
1	白 田 忠 一	無所属	新	643.000
2	阿 部 正 明	無所属	新	623.000
3	長 岡 啓 治	無所属	現	622.000
4	鈴 木 光 一	公明党	現	564.176
5	松 尾 正 二	無所属	新	434.000
6	小 関 崇 夫	日本共産党	現	408.000
7	鈴 木 義 昭	無所属	現	394.823
8	海 野 義 弘	無所属	現	391.685
9	長 岡 裕 二	無所属	現	365.000
10	柴 田 喜久雄	無所属	現	331.000
11	岡 崎 吉 博	無所属	現	305.314
12	渡 辺 薫	無所属	現	213.000
13	熊 谷 信 弘	無所属	新	76.000
14	伊 藤 信 雄	無所属	新	51.000

(議長、副議長以外は議席番号順)

代表監査委員に村山七郎氏（栄町）を選任



代表監査委員に就任した村山七郎氏

定例監査や決算審査など、町の財務状況や事業の運営状況をチェックし指導する町監査委員に、5月2日の町議会臨時会での同意を経て、前町議会副議長の村山七郎氏（栄町）を選任し、9日、同氏に選任書を交付しました（7日付）。

同委員の定数は町村の場合2人。一人は議会議員の中から、もう一人は地方公共団体の財務管理、事業の経営原理その他行政運営に関し、優れた識見を有する者の中から選出されることとなっています。任期については前者が議員の任期中、後者が4年で、地方自治法により後者が代表監査委員を務めることとなっています。

議員時代にも監査委員を務めたほか、農業協同組合やAsahi自然観の経営など第一線で活躍した村山氏。その手腕が買われての就任となりました。

【朝日町議会各種委員会等の構成員及び役職】

凡例：◎…委員長、○副委員長、□…委員、議員

議席番号	氏名	特別委員会	常任委員会			その他の議会選出委員・議員		
		議会運営	総務文教	産業厚生	議会広報	監査委員	農業委員	西村山広域行政事務組合議員
1	松尾 正二	○		□				□
2	岡崎 吉博			□		□		
3	柴田喜久雄	□		◎	□			
4	鈴木 義昭	□		○	◎			□
5	阿部 正明		□		□			
6	白田 忠一			□	○			
7	小関 崇夫	□	◎					
8	鈴木 光一		□				□	
9	長岡 裕二			□	□			
10	渡辺 薫		○					
11	海野 義弘	◎	□					
12	長岡 啓治		□					□

国（厚生労働省）の支援を受けて雇用創出のための事業に取り組んでいる朝日町。起業を志す人たちのそれぞれ研修会が現在も継続して行われています。講師の先生方への謝礼が主な予算である「雇用創造推進事業（新パッケージ事業）」については、今年度が3年目となり最後の年を迎えています。これまで、地元にある素材を活用した農畜産物の生産と食品加工といった、新商品開発に主眼が置かれ事業を進めてきましたが、今年度は流通販売

の面についても力点を置きながら事業を展開していく考えです。その新たな試みとなるのが「駐在員制度」です。仙台市内のお互いに信頼し合える良き理解者（「パートナー」）の中から駐在員を委嘱。地域の人たちが抱えている課題の把握や解決策に対して、朝日町としてどう応えていけるかを模索し、信頼し合える関係づくりを構築することで、会員制による予約販売や宅配事業などの可能性を探っていきま

生活の良き理解者として仙台に駐在員を配置

なりわい 業を創る 連載企画

「都市と農山村が互いの生活を支え合う関係」の構築を掲げ、仙台圏との交流を進める「朝日町産業創造推進機構」の取り組みを連載で紹介し



信頼し合える良きパートナー「北仙台商店会」の皆さんと大谷野菜クラブの交流会（昨年秋）

あなたの婚活を大応援！

町婚活推進連絡会議が発足

町の結婚問題に対する新たな取り組みとして、第1回目の町婚活推進連絡会議が4月25日、役場内で行われました。



4月25日に行われた第1回目の会議

これまで、町ではフィリピンの花嫁さんの招へいやアップルカップル事業、さらにはハッピープランサポート事業など、結婚問題に対して先駆的な取り組みを行い一定の成果を得てきました。

今回の新たなスタートに当たって、結婚問題は、町行政のみならず地域の大きな課題の一つであるところから、行政と地域が互いに協働しながら進めることにしました。そのようなことから、町内各地

域から、地域づくりに対する熱意と「婚活」に対して理解のある方々に、地域婚活サポーターとして協力を依頼。この日、12人に対し鈴木町長から委嘱状を交付しました。

■町地域婚活サポーター
花山忠夫（栄町）、渡辺淳（送橋）、鈴木俊一（大町）、成原早弓利（前田沢）、佐藤透（沼向）、柴田実（宇津野）、阿部真由美（立木）、鈴木勝（西船渡）、布施哲也（松程）、遠藤直裕（舟渡）、鈴木仁（大谷三）、鈴木直幸（大谷五）

町の元気が、日本の元気！

届け、元気を、被災地へ！

町長歳時記
(64)

四月八日午前、宮城県の村井嘉浩知事が首相官邸を訪れ、菅首相に「過度の自粛の解消を要請した」というニュースが報道されました。その中で村井知事は「日本全体が元気にならないければ、被災地も元気にならない。どうか総理自ら先頭に立つて、日本を元気にしてもらいたい」と直言されました。

この村井知事の言葉は、被災地の知事の言葉として、非常に重く、尚かつ重要なメッセージとして多くの日本人の心に響き渡ったのではないかと思います。

三月十日、東日本大震災発生以降、日本全体を覆いつくした沈痛な重苦しい空気。声を潜めた感情が時間さえも止めてしまったかのような漠とした不安漂つた空気。被災者、被災地、そして亡くなられた方、行方不明の方を慮つての自粛への傾斜。分かっているが誰か言い出せない重苦しい空気の中での当事者である村井知事の

発言は、誠に意味のある重要なメッセージでありました。

町が元気になることが、日本の元気につながり、ひいては被災地の元気につながる。私たち二人ひとりの元気と活力が、直接被災地の方々への支援につながっていくのだということを、私たちはしっかりと受け止めなければなりません。

今私たちがやらなければならないこと。それは私たち自身が自らの手で足で立ち上がり、元気になることです。

それには、明るい笑顔と、元気なあいさつ。そして前向きな心と積極的な行動。これが元気な町を作って行き、それが日本の元気、被災地の元気につながって行くのです。

がんばろう日本。届け、元気を、被災地へ！

町長 鈴木浩幸

平成 23 年度の町消防団体制

団 長	高橋久仁彦 (大 町)
副団長	浅岡清二郎 (西 町)
本部付分団長	阿部富士男 (八ツ沼)
〃	長岡 秀典 (栄 町)
〃	小林 晴雄 (大 沼)
〃	長岡 秀昭 (前田沢)
〃	長岡 啓一 (大谷一)
〃	安藤 克幸 (松 原)
〃	安孫子宏栄 (前田沢)
第一分団長	阿部 勝彦 (西 町)
同副分団長	阿部 晃典 (新 宿)
一の一郎長	岡崎 国宏 (西 町)
一の二部長	熊谷 知則 (緑 町)
一の三部長	菅井 聡 (沼 向)
一の四部長	岡崎 正幸 (水 本)
一の五部長	佐竹 勝久 (宇津野)
第二分団長	鈴木 新一 (常 盤)
同副分団長	安藤 利行 (常 盤)
二の一郎長	長岡 佳之 (太郎一)
二の二部長	白田 希 (松 程)
二の三部長	海野 貴弘 (能 中)
二の四部長	海藤 繁幸 (常 盤)
第三分団長	鈴木 仁 (大谷三)
同副分団長	遠藤 直裕 (舟 渡)
三の一郎長	白田 紀彦 (大谷六)
三の二部長	小林 勝弥 (大 沼)
三の三部長	布施 貴之 (真 中)
三の四部長	遠藤 慎太郎 (栗木沢)
役場消防部長	阿部 正樹 (政策推進課)

平成 23 年度の区長さんをご紹介します

■中部地区【25 区】

本 町	鈴木 敬二	80
西 町	高橋 久	108
栄 町	花山 忠夫	66
助ノ巻	鈴木 健雄	54
大 町	鈴木 昭一	167
元 町	長岡 五郎	57
西 原	阿部今朝夫	16
前田沢	成原 勝志	65
新 宿	阿部 忠男	59
四ノ沢	石塚 吉男	55
小 原	平 雅之	42
宿	鈴木 幸雄	35
沼 向	菅井 正則	57
平	佐藤 秀幸	15
大 隅	近衛 正雄	31
古 槇	清野 秀雄	27
送 橋	清野 恒彦	35
下芦沢	佐竹 清道	21
水 本	高橋 光一	23
杉 山	安藤 稔	29
松 原	伊藤 正男	31
宇津野	海野 信雄	43
大 滝	奈良崎美雄	23
雪 谷	鈴木 賢一	14
緑 町	千葉 英雄	45

■西部地区【16 区】

常 盤	阿部 浩	94
夏 草	阿部 美喜雄	53

長 沼	海野 和義	16
西船渡	鈴木 昭雄	44
八ツ沼	田川 順一	41
能 中	海野 利昭	39
高 田	佐竹 啓次	16
太郎一	大高 祐一	50
太郎二	相座 孝雄	36
太郎三	長岡 儀市	21
石須部	長岡 誠雄	11
立 木	古川 征一	35
白 倉	阿部 馨	10
松 程	阿部 和夫	101
大船木	佐藤 幸信	22
今 平	阿部 功一	13

■北部地区【14 区】

大谷一	兼子 正昭	33
大谷二	白田 甲子郎	37
大谷三	石井喜久男	39
大谷四	白田 敏男	27
大谷五	長岡 藤夫	75
大谷六	小野 隆弘	42
大谷七	堀 敏男	13
中 沢	五十嵐澄雄	38
真 中	庄田 文夫	37
舟 渡	五十嵐義一	29
栗木沢	遠藤 貞悦	82
川 通	志藤 博喜	17
大暮山	長岡 良一	27
大 沼	最上俊一郎	31

※数字は世帯数、緑文字は新任区長さんです

「地域交通安全活動推進委員」「高齢者交通安全指導員」に当町から 3 人を委嘱

寒河江西村山地区の「地域交通安全活動推進委員」12 人への委嘱状交付式が 4 月 6 日寒河江警察署で行われ、当町から白井淑浩さん（大谷六）と渡辺健一さん（送橋）に県公安委員会からの委嘱状が交付されました。任期は 2 年で、今後は交通安全教育活動や広報啓発活動などを通じて地域における交通安全啓発活動に取り組みます。

また、同 12 日には地域における高齢者の交通事故防止活動に取り組む「高齢者交通安全指導員」の委嘱状交付式が同署で行われ、畑俊美さん（大谷二）が県警察本部長からの委嘱状の交付を受けました。任期は 1 年で、今後は高齢者の個別訪問や警察署との連携などを通じて、高齢者の交通事故防止に取り組めます。

朝日町 空気のふるさと 推進町民運動

環境先進地域の気概をもう一度

これまで町では、平成2年7月に有志によって空気神社が建立され、同年9月には「地球にやさしい町」宣言を議決、さらに平成4年3月には「朝日町空気の日条例」を制定するなど、環境に配慮したまちづくりを進めてきました。

しかしながら、経済の発展の中で、大量生産・大量消費・大量廃棄による、環境への負荷が増大し、将来にわたる深刻な問題として認識されるようになりました。

町では豊かな環境を将来にわたって守るため、昨年「朝日町環境基本条例」の制定に合わせ「朝日町環境基本計画」を策定しました。また、この計画の推進母体として、町内関係団体によ



マイバッグの持参運動 (レジ袋を削減)

国内で年間約300億枚消費されているレジ袋。そのほとんどはごみとして捨てられています。使い捨て文化の象徴とも言われているなかで、マイバッグ持参運動による、レジ袋削減の取組みが全国的に広がっています。

この運動は、ごみの減量化や限りある石油資源の節約、地球温暖化防止につなげる、私たちがもっとも身近にできる環境保護運動の一つです。

町内スーパーでのマイバッグ持参率は約50～60%と徐々に浸透しているものの、まだ低い状況です。まずは、身近なことから始めましょう。

▼主な取り組み

- ・啓発ポスターやのぼり旗で、マイバッグの持参を呼びかけます。
- ・スーパーや小売店におけるレジ袋有料化の検討を進めます。
- ・町内におけるマイバッグ持参率の調査を行い、結果を公表します。



菜の花プロジェクトの推進 (廃食油を回収し、バイオ ディーゼル燃料へ再資源化)

当町の「菜の花プロジェクト」は、循環型社会形成の取組みの一環として、山形県トラック協会の協力により平成19年度水本地区でスタートしました。休耕地を利用して育てた菜の花から菜種油を採取し、学校給食等に利用した後、使用済の廃食油を回収してバイオディーゼル燃料(BDF)に精製、トラック等の燃料として再利用するものです。

昨年11月からは、家庭から出る廃食油の全戸回収が始まりました。平成22年は、学校等公共施設等からの回収分を合わせ町内全体で2,872ℓの廃食油を回収しました。各家庭でも協力できる取組みとして、今後、循環型社会形成への意識の高まりが期待されます。

○主な取り組み

- ・啓発ポスターを活用し、家庭からの廃食油回収を推進します。
- ・「菜の花プロジェクト」への参加を通し、小学校児童の環境学習を推進します。

り構成する「朝日町空気のふるさと推進協議会」が発足。町民・事業者・行政それぞれが連携・協働して、各構成団体の主体的な取組みを推進していくこととしています。環境問題への取組みは、私たち一人ひとりが行動をおこすことから始まります。町民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

なぜ今、町民運動なのか？

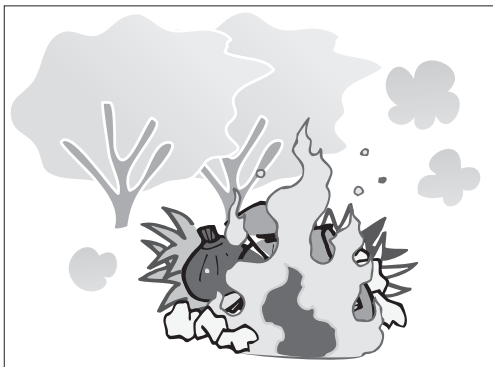
▼行政ができることは限られており、これからは、町民、事業者、行政それぞれの役割を再確認し、相互協力により環境を守る取組みを実践することが大切です。

▼世界に唯一の「空気神社」を持つ朝日町ですが、澄んだ空気を守るための取り組みを、朝日町民共通の運動として展開することにより、町を愛する心、地域を守る力にもつながります。

▼隣近所での野焼きなど、不快に思ってもなかなか言い出せない状況です。町民運動を展開することにより、町全体として野焼きできない環境を作っていく必要があります。

一人ひとりの行動が、環境を良くする第一歩です。できることから始め、次世代に安全で安心な環境や資源を残していきましょう。

今年度の重点取組テーマと主な取組み内容について紹介します



野焼き防止 (ごみを燃やさない)

ごみを野外で燃やすことは、法律で禁止されています。例外として、宗教上の行事やキャンプファイヤー、果樹など剪定枝の焼却等は認められていますが、この場合であっても、集落の近くや道路沿いなど生活環境上支障とならないような配慮が必要です。

当町においては、依然として野焼きが後を絶たず苦情が寄せられています。野焼きによる煙やにおいは、隣近所にとって大変迷惑なものです。ごみは燃やさないで分別し、指定のごみ袋に入れて集積所に出しましょう。

▼主な取組み

- ・啓発活動を展開し、野焼きしにくい環境をつくります。
- ・各団体の啓発活動を通じて意識を高めます。
- ・不快に思っている人がどれくらいいるのか意識調査を行います。



不法投棄や ごみのポイ捨てをなくす

道路沿いや河川沿いなど、依然として不法投棄やごみのポイ捨てが後を絶たず、モラルの低下が懸念されています。

上郷ダムにも年間 100t を超えるごみが漂着しており、流域自治体の問題となっています。不法投棄は、美しい景観を損ねるだけでなく、地域の土壌や水質に重大な影響を与えかねません。不法投棄物を回収し現状回復するには、多くの人と時間とお金がかかり、これらの費用には貴重な税金が使われています。

▼主な取組み

- ・パトロール及び回収を行い、不法投棄の防止や環境の維持に努めます
- ・啓発看板やポスターを活用し、ごみを捨てにくい環境をつくります。
- ・協議会構成団体を中心に、不法投棄の通報体制を強化します。
- ・不法投棄の実態を公表します。
- ・不法投棄の目立つ国道道駐車帯の封鎖を県に要望します。



被災家屋の外壁にはスプレーで解体の可否などが表示されていたが、ほとんどが解体を容認するものだった



役場前で撮影した一枚。このあたり一面に異様な臭いが漂っていて、テレビや新聞が伝えきれない被災地の実情に愕然とさせられた



岩手県山田町の役場庁舎。津波対策からか、5階建ての特徴ある外観。比較的高台にあり、難を逃れた

「日本は確かに つながっていた」

ー全国から駆けつける復興支援スタッフー

5月5日から5月9日までの5日間、山形県職員と市町村職員総勢10人により構成される「山形県被災地広域支援隊」の一員として、東日本大震災被災地の支援活動に参加してきました。

派遣先は岩手県下閉伊郡山田町。人口は約1万8000人で漁業の盛んな美しい町でした。あの日までは。地震発生から約25分後に津波が町をのみこみ、5月10日現在で死者・安否不明者は約900人にのぼっています。

震災後2カ月を迎える今、家を無くし、仕事を無くし、そして家族をも無くされた方が、さまざまな形で町の復興に関

わっています。この度の支援業務の中では、そういった方々に話をうかがい、一緒に汗を流すことができました。

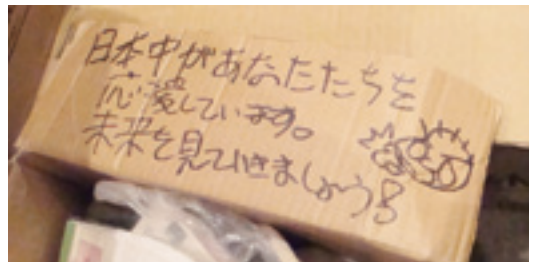
今回私たちに与えられた任務は、全国から届けられる物資の仕分けと、町内29箇所の避難所に配送する物資の準備。避難所からの要望の多様化と、物資の種類及び数量の増加に翻弄される毎日でした。山田町の方はもちろんですが、山形県支援隊や自衛隊、そのほか全国各地から想像以上のボランティアが現地入りし、頑張っていました。

震災後「がんばろう東北、つながろう日本」という言葉をテレビ等でよく耳にします。



建設水道課 技師 海藤 繁幸

山形県被災地広域支援隊活動報告
(5/5-9: 岩手県山田町)



(上) 町に届く物資を保管している町中央公民館。会議室のほか、ホールの客席まで段ボールで埋め尽くされていた (右上) 担当任務は物資の管理及び仕分けで、地元及び県外の他のボランティアスタッフと共に作業を行った (右) 段ボールには様々なメッセージがあり、人々の想いが込められていた



食べ物の配給を待つ人々の行列。子どもからお年寄りまで毎日夕方に1,000人以上が訪れていた

(上) メッセージ入りのTシャツを身につけている地元のボランティア。本人の強い意志を感じた (右) 被災地を離れる際、車窓から目にした横断幕。疲れが吹き飛び心が洗われた



被災地を往復する道のりでもこれをいろいろな形で目にしました。今回の支援活動を通じて、文字通り日本はつながっていると感じました。

実動3日間という短い間で、したが、派遣隊の一員として、ほんのわずかでも復興に関われたことは私にとって貴重な経験となりました。完全な復興までは10数年かかる見込みだそうです。これからも遠くからではありますが、復興を見守り、機会があればまたお手伝いしたいと思います。

役場庁舎から見た山田町の町並み (5月7日撮影)



（チャリンこ）

電動アシスト自転車

春を探す旅



（上）満開の桃の花 一本松公園（能中）に向かう途中の一枚
（下）今回の旅の主役となった電動アシスト付き自転車「チャリンこ」。町総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」でレンタルできる



「利用をすすめるには、まず自分が体験しなければ…」と5月5日、自称町のマスコット

3月、東日本大震災直後に発生した、ガソリン等の燃料不足。その影響により、役場では公用車の使用が制限されることになった。そのとき「代車」として活躍したのが電動アシスト付き自転車。町観光協会が町内の観光用に購入した（8台）もので、今回の地震では、町が臨時の「公用車」として一時的に借用した。充電式のバッテリーが脚力をサポートするため、少し

キャラクター「桃色ウサヒ」の「中の人」こと、佐藤恒平町情報交流推進員と一緒に、この自転車で町内をめぐる旅に出かけた。

午前9時20分、宮宿の「旅のココロ館」を出発。めざすはこの日10時00分から行われる大沼浮嶋稲荷神社の例大祭。国道287号から大谷を経由する、比較的起伏の少ないルートをとった。

宮宿と和合間の起伏は難なくクリア。大谷を通過後、大暮山地内の滝の沢集落からはひたすらゆるい登り坂となる。電動アシストとは言え、坂が続くと決して楽ではなかった。神社に到着したのは10時20分。結局、地区内を練り歩く行列には間に合わず…。

11時00分、大沼を出発。来た道をそのまま戻る。長い下り坂。風を切り疾走する。途中、滝の沢の桜の下で休憩。ここで撮影したのが表紙の一枚。その後、この家の阿部さんのご好意で、昼食をそちそうになる。

午後1時00分、滝の沢を出発。カヌーランドを経由し、午後2時00分、産直和合。搾りたてのりん



滝の沢集落にお住まいの阿部健一郎さん、あさ子さん。誰もが目に留まる見事な桜は、大正天皇が即位した際記念に植えられたもので、今年でちょうど樹齢百歳を迎えた



(上) 例大祭でにぎわう浮嶋稲荷神社の境内。(下) おみくじを引く子どもたち。一喜一憂する姿が印象的



(左) 休憩をとった産直和合で、「チャリಂಗ」を興味津々と見入る、おしゃれな雰囲気のご家族

(下) 産直和合の店内に所狭しと並ぶ旬の山菜



(下) 樺平の棚田を見に、一本松公園駐車場をめざし坂を上りかけていたところ、まさかの充電切れ。このあと上半身はTシャツ一枚で、汗だくで上りきった



能中地内で採取した二枚貝の化石。このほか植物の化石なども採れた

そこら棚田側に農道を下りる。間もなく現れるゴツゴツとした岩肌。そこは知る人ぞ知る化石の宝庫だ。崩れ落ちた石から化石を探す。

一時間ほどで二枚貝などの化石数個を採取し、4時00分、能中を出発。五百川橋経由で宮宿に戻り、

ごジュースでのどを潤す。店内は旬の山菜とお客さんでいっぱい。2時30分、八天橋経由で能中地区へ。春の棚田を見に、一本松公園に向かうとしたところ、まさかのバッテリー切れ。ただの自転車と化したものの、変速ギアを駆使して何とか上りきり、景色を見ながら息を整えた。



そこから棚田側に農道を下りる。間もなく現れるゴツゴツとした岩肌。そこは知る人ぞ知る化石の宝庫だ。崩れ落ちた石から化石を探す。

一時間ほどで二枚貝などの化石数個を採取し、4時00分、能中を出発。五百川橋経由で宮宿に戻り、

4時20分にココロ館へ到着。電動アシストとは言え、途中からはただの自転車。もうくたくただ。

のせいなのだ。

把握していなかった自分のせいなのだ。

で苦労したのも、大沼までの距離をきちんと

と。結局、充電切れ

目安は約16kmとのこ

と。結局、充電切れ

認したところ、距離の

について観光協会へ確

ちなみに、バッテリー

電動アシスト付き自転車「チャリんど」

- ▼料金 1台 500円 (半日)
- ▼申込み 下記へ電話でどうぞ
- ▼問合せ 町総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」 ☎67-2134

■高田俳句会が例会100回を達成

通算100回目となる高田俳句会（岩崎孝彦代表）の例会が4月30日同区公民館で行われ、8人の会員が節目を祝いました。

平成14年3月、4人でスタートした同会。その後、毎月1回会を開き、約9年で100回を達成しました。

句会では、それぞれがひと月の間に詠んだ5句を持ち寄り、自分以外の句から気に入った句を選ぶこと（選句）から始めます。その後多くの会員に選ばれた句を詠み、じっくりと句の世界を鑑賞。それぞれ

の句に詠み手の個性が出るので、100回目ともなると、句を詠むだけで誰の句か見当がついてしまうんだとか。同会を主宰する岩崎さんは

「いつの間にか100回になってしまったという感じです。『風流』という言葉が現代風に解釈し、頭の体操のつもりで楽しんでいきます。今後遊び心を大切にしていきたいと思っています」と話していました。

なお4月の例会では、世相を反映し、地震や原発に関連する言葉を使った句が多く詠まれていました。



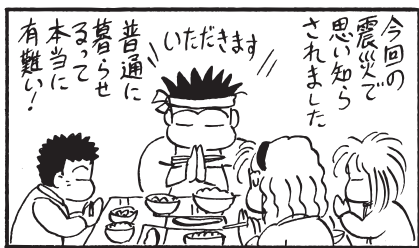
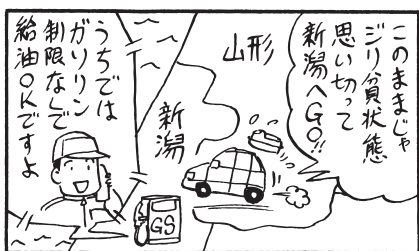
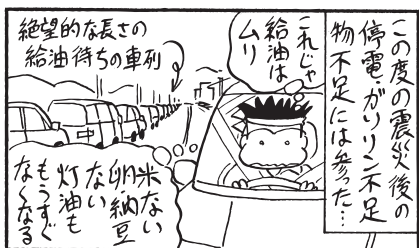
例会で選句を行う会員

【4月の例会より紹介】

落味噌や墨絵の里の夕の膳
風光る百回の句座純米酒
春晩や余震余震に目は冴える

となりの ワシゴさん

(234) ホリイ



■大谷小学校春の秋葉山たんけん



大谷小学校の「秋葉山たんけん」が5月2日行われ、全校児童80人が学校の裏山へ春を探しに出かけました。

毎年春と秋の2回、秋葉山への散策を実施している同小学校。季節によって異なる植物や昆虫を観察しています。

この日は5月とはいえ、冷たい風が吹きつけるなど、肌寒い天候でしたが、児童たちは皆へっちゃらの様子。給食や掃除などの活動を行う「縦割り班」に分かれ、上級生が下級生をリードしながら山の中へ。先生方が待つ複数のチェックポイントを確認しながら散策を楽しみました。

町立図書館コーナー

「グロウプ号の冒険」

井上 ひさし 著

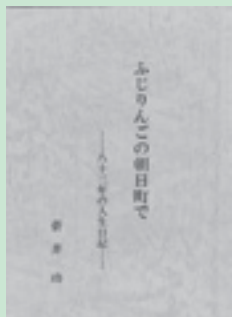


現代社会への風刺をちりばめた、抱腹絶倒の冒険譚。1987年から89年まで断続的に『世界』へ連載され、惜しくも未完のままとなった長編小説を単行本化したもの。

「ふじりんごの朝日町で」

一八十三年の人生日記」

菅井 功 著



平成15年3月初め、NHK「ラジオ深夜便」の「心の時代」で著者が歩んできた道を紹介。その時に綴った記録から伝えおきたいこと、言い残したいことなどをまとめた一冊。和合在住。



■平成23年(2011年)
4月1日～4月30日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
太郎一	小川 紗弥花	女	真悦・欣美
沼向	佐藤 葉月	女	貴志・恭子
大町	モウ 玲音	男	マーティン・真紀
今平	阿部 正宗	男	正文・祐子



おしあわせに

安藤 雄太	吉田 麻美
(杉山)	(山辺町)
塚本 哲源	斎藤 圭子
(大谷二)	(舟形町)
岡崎 藤夫	高橋 恵子
(水本)	(東京都)
飯野 意彦	森 真由美
(大町)	(和歌山県)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
送橋	渡邊 すけの	武志
宇津野	長岡 はなゑ	泰美
明鏡荘	小林 タマエ	本人
新宿	成原 とみ	節子
下芦沢	渡邊 まさ子	正良
本町	鈴木 信代	長太郎
ふれあい荘	小和田 直子	本人
舟渡	遠藤 正雄	憲一
宿	佐藤 金作	繁夫
立木	阿部 政太郎	政和
元町	浅岡 米五郎	正昭
西町	長岡 江せの	啓淳
西町	白田 ハルヨ	淳
川通	志藤 功雄	郁男
常盤	鈴木 きよ子	智
川通	齋藤 富夫	志藤政利
栗木沢	遠藤 清松	茂
常盤	長岡 ムツ子	本人

人口と世帯数

●平成23年4月30日現在

人口	7,995人	(-23)
男	3,966人	(-9)
女	4,029人	(-14)
世帯数	2,509世帯	(-3)
		()内 前月比

-----4月中の異動-----

出生	4人	転入	19人
死亡	18人	転出	29人



白倉地内に咲くカタクリ

「人」も大きな観光資源

4月11日より朝日町観光協会に観光振興推進員として着任しました。生まれは山形市で、約21年間住んでいました。しかし、恥ずかしい話ですが「朝日町」のことはあまり知りませんでした。

まもなく、朝日町に来て1ヶ月経ちます。まだ、少ししか外を回れていませんが、自然に恵まれた静かな町、意外と山形市が近い、雪が多いといった印象があります。

朝日町の観光資源を見ると、りんごやワイン、朝日岳、最上川、大沼の浮島、空気神社など、個々の資源はあるものの、正直、核となる大きなものは見当たりません。それは、旅行ガイドブックにも町の情報がほとんど掲載されていないという事実が裏付けています。

しかし、観光資源は場所やモノだけではなく、人でもありません。この町に来て、それを改めて感じました。温かい心を持った人がなんと多いこと！つまり、「人」も大きな観光資源になれるのです。

これらの資源を活かし、様々な形で町内外の交流を活性化させ、町を訪れるリピーターを増やしたいと思います。私自身、精一杯努力いたしますので、どうぞよろしくお願いします。

■ブックテーマコーナー
「大震災これなら生き残れる」
「きちんと節約、すてきに暮らす」
—今すぐできるエコライフ—

▼県庁おもてなし課／有川浩
▼豆腐小僧双六道中おやすみ／京極夏彦
▼六条御息所源氏がたり2／林真理子
▼ふるさと再生／坪田智己
▼三人姉妹殺人事件／赤川次郎
▼いねむり先生／伊集院静
▼古いへの不安／春日武彦
▼ワタクシハ／羽田圭介
▼白い月の丘で／濱野京子
▼メキトベス漂流記／西魚リツコ
▼カササギたちの四季／道尾秀介
▼円卓／西加奈子
▼天魔ゆく空／真保裕一
▼ナマコ／椎名誠 ほか

空を彩る水平の虹と大きなリング

— 珍しい天体ショーに目が釘付け（5月3日） —



（上）豊龍の丘で撮影した「環水平アーク」。子どもたちも歓声を上げていた。

（下）太陽を取り囲む日暈。当初は一つだけだったが、いつの間にかもう一つ出現。一方は虹のように七色に輝いていた。



「環水平アーク」と「日暈」

ゴールデンウィークの中盤、憲法記念日の5月3日午前10時30分頃から午後2時頃にかけて、山形県内各地で上空に水平の虹（環水平アーク）と太陽を取り囲むような大きなリング（日暈）が観測され、珍しい天体ショーに多くの人々の目がくぎ付けとなりました。

どちらも、大気中の氷粒に太陽光が屈折してできる自然現象。県内では昨年5月にも観測されています。

この日は宮宿地区の豊龍神社の祭礼。参拝に訪れていた方々の間でも大きな話題となっていました。

春夏秋冬 編集後記

蛇口から出る
水の「産地」を
明らかに

東日本大震災の発生以来、電気や水に対する関心が高まっていることから、今月から2回企画で町のライフラインを特集。今月号では水についてまとめています。

「安全・安心」という言葉に代表されるように、ここ最近では「食の安全」に対する人々の関心が急速に高まっています。東日本大震災で原子力発電所の問題が表面化して以降は、水道水の安全管理も注目されるようになりました。

水も食品と同様、人が口にするもの。昨今、食品の産地表示が厳しくなっている中で、各家庭の蛇口から流れ出る水の「産地」と「流通経路」を明らかにすべく、今回の特集を企画しました。

来月はライフライン特集の後編として電気、とりわけ町にある発電所を特集します。皆さんは町内に何力所あるかご存知ですか？実は意外に多いんです。

佐久間 淳